

# 全仏

ZENBUTSU



# 440

仏暦2541年 8月 (1998年)  
財団法人 全日本仏教会  
JAPAN BUDDHIST FEDERATION



東大寺で行なわれた全日本仏教青年会花まつり千僧法要  
(関連記事16頁)

理事会、各委員会開催  
ルンビニー園マヤ堂復興事業への取り組み

# 理事会開催

本会の理事会が、去る五月二十七日午後二時から、リーガロイヤルホテル京都で開催された。三帰依文唱和に続いて、不破理事長を議長に、豊原大成・近藤真道の両師を議事録署名人に出し議事に入った。

**議案第一号 「平成九年度事業報告について承認を求める件」**

**議案第二号 「平成九年度収支決算について承認を求める件」**

不破議長より、第一号及び第二号の二議案を一括して上程。始めに、野生司総務部長が事業の概要を報告、続いて吉橋財務部長が一般会計、特別会計の収支決算について詳細な説明を行った。監事を代表して小川純夫監事より監査報告を行った後、原案通り承認された。

**議案第三号 「平成九年度ルンビニー園復興計画事業報告並びに中間収支について承認を求める件」**

不破議長より上程。吉橋財務部長が、事業内容及び中間収支について詳細に説明した後小川監事が「ルンビニー園復興事業は、予算

編成された当初の事業内容が、その後に変更を余儀なくされており、予算の見直しを検討されたい。」と監査報告を行った後、原案通り承認された。

## 報告事項

①ルンビニー園復興計画事業の現状について

ルンビニー委員会の川井委員長が、ネパールの政治状況と現在までの事業内容を説明し「今回のルンビニー委員会で予算の見直しを行う。」と報告した。出席者より事業の推進方法について活発な質問、意見が出された。

②第二十回WFB世界仏教徒会議シドニー大会について

野生司総務部長から、今秋オーストラリアのシドニーで開催が予定されている同大会について説明された。

## ③事務総局各部報告

渡邊社会部長から、七月の参議院議員選挙の立候補者の推薦を、これまでと同様に行いたい旨が報告された。

暑中お見舞い

申し上げます

財団法人 全日本仏教会

会長

濱野 堅照

副会長

清水谷孝尚

理事

河野 憲善

理事

岩田 文有

理事

奈良 康明

理事

不破 仁

常務理事

乙川 良英

森 和久

豊原 大成

北條 成之

能邨 英士

藤坂 初裕

成田 有恒

川井 匡俊

永井 祥文

新居 祐政

細川 景一

藤 光賢

楠 宗親

鳥居 慎譽

白川 謙敬

理事

横山 敏明

安藤 正晃

塚原 亮応

五十嵐意承

## ルンビニー委員会

五月十九日午後二時半から、明照会館会議室で、第一回ルンビニー委員会が開催された。

蓮事務総長より挨拶、続いて委員互選により、委員長に川井匡俊師（浄土宗）、副委員長に森和久師（曹洞宗）が再選された。

次に川井委員長より経過報告、入西国際文化部次長より、四月二十日から三十日までのネパール出張報告がなされ、現在のマヤ堂の状況が詳細に説明された。

続いて、川島委員（企画渉外担当）より概況説明があり、今後の事業推進について出席者により活発に意見交換がなされた。

## 信教の自由に関する委員会

六月十六日午後二時より、明照会館会議室で、第一回信教の自由に関する委員会が、開催された。

最初に、正副委員長の選出が行われ、委員長に野村盛彦師（浄土宗）、副委員長に小山典勇師（真言宗智山派）が選ばれた。

続いて、本年度の活動方針が審議され、別記「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止の要請」を、内閣総理大臣宛に提出することが決められた。

## 首相及び閣僚の靖国神社公式参拝

### 中止の要請

本会は「靖国神社法案」、首相及び閣僚の「靖国神社公式参拝」に対して、過去十七回にわたり、反対の意志表明を行ってまいりました。

靖国神社は、特定の基準をもって合祀の対象とした戦没者を祀る神社であり、純然たる宗教施設であることが明白であります。

したがって、一宗教団体である靖国神社に首相及び閣僚が公式参拝することは、どのような形式をとりましても、憲法に定める「信教の自由」「政教分離の原則」に違反することは疑いの余地がありません。

昨年四月に最高裁判所は、靖国神社等への公金支出が、金額の多寡を問わず憲法違反に当たるという明確な判断を示しました。

私たちは、これら憲法の規定こそ、今日の平和な日本の礎となっていることを、改めて確認したいと思います。

戦没者の追悼は、国家が特定の宗教にかかわって行うべきものではなく、各ご遺族がそれぞれに真実と仰ぐ宗教によってなされるべきものであることは、当然のことです。

本年も、まもなく「戦没者を追悼し平和を祈念する日」がまいります。首相及び閣僚が、靖国神社への公式参拝をされないよう、強く要請いたします。

一九九八年八月一日

財団法人 全日本仏教会  
理事長 不破 仁

長谷川 靈信  
江連 俊則  
佐々木 盛英  
増田 貞圓  
志鶴 秀邦

### 監事

小川 純夫  
島田喜久子  
中村 啓識

### 事務総局

事務総長 蓮 清典  
総務部長 野生司 祐宏  
財務部長 吉橋 勝寛  
同和推進部長 高橋 智恒  
社会部長 渡邊 宗徹  
国際文化部長 櫻井 英幸  
総務部次長 大谷 常淳  
財務部次長 江口 貫正  
同和推進部次長 三浦 章興  
社会部次長 壽山 良光  
国際文化部次長 入西 智彦  
主事 水野 和子  
江澤みゆき

# 暑中御見舞い申し上げます

## 曹洞宗宗務庁

管 長	板橋 興宗
宗務総長	乙川 良英
参 議	福山 諦法
参 議	岩本 昭典
教学部長	森 和久
総務部長	横山 敏明
教化部長	洞外 文隆
伝道部長	檀上 尚道
財政部長	洲 英徳
出版部長	葦原 正憲
人事部長	乙川 暎元

東京都港区芝二丁目一五二番一  
〒105-8544 ○三(三四五四)五四一一

## 浄土真宗本願寺派

総 長	豊原 大成
総 務	日谷 周暎
同	武野 以德
同	中岡 順孝
同	波多野 昭方
同	九折 舜壽

京都市下京区堀川通花屋町下ル  
〒600-8358 ○七五(三七)五一八一  
FAX ○七五(三五)一一二二一一

## 真宗大谷派

宗務総長	能邨 英士
参 務	三浦 崇
参 務	藤野 護
参 務	安原 晃
参 務	大城 雅史
参 務	石川 正生

同和推進本部長  
京都市下京区烏丸通七条上ル 常葉町七五四  
〒600-8505 ○七五(三七)九一八一代表

## 日蓮宗宗務院

管 長	田中 日淳
宗務総長	永井 祥文
宗務副総長	渡邊 一之
綜合企画部長	加賀美 泰全
庶務部長	小松 淨慎
財務部長	篠原 智高
教務部長	二宮 將泰
護法伝道部長	上田 尚正
立教開宗七五〇年慶讃会事務局長	松井 義昭
現代宗教研究所長	石川 浩徳
国際開教長	中篠 令紹
室人権対策長	前田 幸廣
参 与	堀江 宏正
参 与	浅井 玄裕

東京都大田区池上一丁目三十一番一五  
〒146-8544 ○三(三七五)七一一八一  
FAX ○三(三七五)一七八六

# 暑中御見舞い申し上げます

## 真言宗豊山派宗務所

東京都区文京区大塚五丁目一八 〒112-0012 〇三(三九四五)〇六三九	教化センター 事務局長 田代弘興	教化センター 院長 小野塚幾澄	財務部長 鶴晃秀	教化部長 中川祐聖	総務部長 浅井侃雄	教務部長 若槻繁隆	宗務総長 鳥居慎譽	管長 濱野堅照
--	---------------------	--------------------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	---------

## 浄土宗

浄土宗宗務所 東京都東山区林下町四〇〇一八 〒605-0062 〇七五(五二五)二二〇〇 FAX 〇七五(五三二)五一〇五 浄土宗東京事務所 東京都港区芝公園四一七-四 〒105-0011 〇三(三四三六)三三五一 FAX 〇三(三四三四)〇七四四	職 員 一 同	同和推進 事務局参与 境 順正	同和推進 事務局長 出口芳演	出版室長 小林正道	総長公室長 能登原賢史	東京事務所長 八木季生	社会局長 吉田昭壽	財務局長 近藤正也	教学局長 袖山榮眞	総務局長 江口定信	宗務総長 成田有恒	浄土門主 中村康隆
---	---------	--------------------	-------------------	-----------	-------------	-------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

## 臨濟宗妙心寺派 宗務本所

京都市右京区花園妙心寺町六四 〒616-8035 〇七五(四六三)三二二一	花園會館 部長 見浦宗山	法務部長 津田清章	花園會館 部長 微笑義教	財務部長 瀬古眞隆	教学部長 藤原東演	総務部長 後藤牧宗	宗務総長 細川景一	管長 松山寛惠
--	-----------------	-----------	-----------------	-----------	-----------	-----------	-----------	---------

## 天台宗務所

大津市坂本四丁目六番二号 〒520-0111 〇七七(五七九)〇〇二二	参一隅を照らす 運動総本部長 獅子王圓泰	社会部長 志鳥融真	参教学部長 即真尊龍	参財務部長 大谷正道	参法人部長 植田惠秀	参総務部長 可児光永	宗務総長 藤光賢	天台座主 渡邊惠進
--	-------------------------	-----------	------------	------------	------------	------------	----------	-----------

# 暑中御見舞い申し上げます

総本山金剛峯寺  
高野山真言宗務所

座長 稲葉義猛  
管長 新居祐政  
執行 田岡照遍  
総務 北原裕康  
執学 川島宏之  
財務 山口耕榮  
法会 久利康彰  
山林 常岡弘雄  
内事 佐々木兼俊  
総務 伊勢木俊真  
企画 近藤堯寛  
教学 壽山良知  
東京別院主監 出張所々々  
京都別院主監 出張所々々  
高野山弘法大師 奉賛会東京事務所々々  
服部融宣

和歌山県伊都郡高野山一三二一  
〒648-0294 ○七三六(五六)二〇〇一  
FAX ○七三六(五六)四六四〇

黄檗宗大本山萬福寺  
黄檗宗宗務本院

管長 林文照  
宗務総長 赤松達明  
財務部長 中島義晃  
庶務部長 中澤元重  
教学部長 秦旭光

宇治市五ヶ庄三番割三四  
〒611-0011 ○七七四(三三)三九〇〇  
FAX ○七七四(三三)六〇八八

真言宗大覚寺派  
大本山 大覚寺

管門長 片山宥雄  
宗務総長 廣安俊道  
京都市右京区嵯峨大沢町四  
〒616-8411 ○七五(八七)〇〇七一

真言宗須磨寺派  
大本山須磨寺

貫主 小池弘三  
寺務長 吉井恵貫  
神戸市須磨区須磨寺町四一六一八  
〒654-0071 ○七八(七三)〇四一六

新義真言宗

東京都文京区湯島四一六一二  
湯島ハイタウンB一二二一  
〒113-0034 ○三(三八)四三四六四

金峯山修験本宗  
總本山金峯山寺

管長 五條順教  
奈良県吉野郡吉野町吉野山  
〒639-3115 ○七四六(三三)八三七一  
FAX ○七四六(三三)四五六三

# 暑中御見舞い申し上げます

真言宗智山派宗務庁  
総本山智積院法務所

化管 主長 近藤 隆 敬

寺務 宗務総長 楠 宗 親

教化 部長 阿 刀 隆 信

執総 務部長 小 林 照 宥

執教 学部長 田 村 正 規

執法 務部長 馬 場 修 任

執財 務部長 小 川 純 夫

別院 宗務出張所 執事 鈴木 中 也

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル  
東瓦町九六四  
〇七五(五四一)五三六一

融 通 念 佛 宗  
総本山大念仏寺

法管 主長 白井 慈 勲

寺務 宗務総長 森 田 昭 光

法教 学部長 尾 垣 良 格

庶務 部長 清 林 義 博

会財 務部長 今 田 章 介

〒547-0045 大阪市平野区平野上町  
一―七―二六  
〇六(七九二)〇〇二六

真言宗善通寺派宗務庁  
総本山善通寺

法管 主長 高 吉 清 順

執宗 務総長 榎 原 禅 澄

香川県善通寺市善通寺町  
三―三―一  
〒765-8506 〇八七七(六二)〇一一

真言三寶宗  
大本山清澄寺

法管 主長 坂 本 光 謙

執宗 務部長 藤 本 浄 海

鉄斎美術館 館長 村 越 英 明

宝塚市米谷字清シ一番地  
〒665-0837 〇七九七(八六)六六四一

臨濟宗円覚寺派

大本山円 覚 寺

鎌倉市山ノ内四〇九  
〒247-0062 〇四六七(三二)〇四七八

財団法人  
日本佛教鑽仰会

理 事 長 中 山 静 麿

東京都板橋区舟渡四―十五―一  
〒174-0041 〇三(三九六七)三二八八

# 暑中御見舞い申し上げます

顕本法華宗

管 長 吉 永 日 晴

宗務総長 中 山 昭 夫

宗務次長 山 本 学 人

財務部長 白 井 謙 光

布教部長 阿 曾 久 成

社会部長 鈴 木 無 着

教務部長 奥 村 智 学

庶務部長 三 坂 岳 応

京都市左京区岩倉幡枝町九十一  
〒606-0015 ○七五(七九二)七一七一  
F A X ○七五(七九二)七二六七

神奈川県仏教会

会 長 小 崎 龍 雄

副会長 横 山 敏 明

同 佐 藤 行 信

同 滝 川 覚 道

同 本 間 孝 康

事務局長 丸 山 邦 雄

横浜市中央区大平町九六 西有寺内  
〒231-0859 ○四五(六六二)〇一六六

東京都仏教連合会

会 長 駒 野 教 格

理事長 白 川 謙 敬

事務局長 加 藤 隆 宣

東京都品川区西五反田  
三十五-十五 徳藏寺内  
〒141-0031 ○三(三四九)二五七一  
F A X ○三(三七七)五〇八四

愛知県仏教会

会 長 岩 田 文 有

副会長 玉 井 康 之

同 近 藤 真 道

同 岡 田 泰 成

日進市岩崎台一-一二四〇 観音寺内  
〒470-0135 ○五六(一七〇)三二五八

新潟県仏教会

会 長 中 村 啓 識

長岡市上田町二-二五 徳聖寺内  
〒940-0074 ○二五(八三三)一五八六

北海道仏教会連盟

会 長 羽 栗 周 映

札幌市中央区北三条西十九-二-一 浄土真宗本願寺派  
北海道教区教務所内  
〒060-0003 ○一一(六一)九六二三

# 暑中御見舞い申し上げます

総本山仁和寺  
真言宗御室派

管門 長跡 堀 智 範

執行 宗務 佐藤 令宜

執行 宗務 立部 祐道

執行 宗務 三池 孝尚

執行 宗務 沖田 定信

〒616-8092 京都市右京区御室大内三三  
FAX 〇七五(四六一)一一五五  
〇七五(四六四)四〇七〇

京都府仏教連合会

理事長 細川 景一  
理事 豊原 大成  
理事 能邨 英士

同 牧 達雄  
同 仲田 順和  
同 楠宗 親

同 杉若 惠隆  
同 岡本 龍雄  
同 川崎 観随

同 桃井 晋城  
同 宮田 宏賢  
同 川島 謙宗

同 加藤 章善  
同 津田 清章  
事務総長

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町一  
〇七五(四六一)五二二六 (妙心寺内)

財団法人 埼玉県佛教会

会長 江連 俊則

副会長 酒井 文雄

同 目黒 靖淳

専務理事 萩野 映明

常務理事 勝山 良盛

同 金子 泰嶽

同 嘉村 義正

同 腰塚 麟也

〒336-0011 浦和市高砂四一三一一八  
FAX 〇四八(八六一)二一三八  
〇四八(八六四)六六四九

本門 佛立宗  
本山 宥清寺

講 有井 上日慶

宗務総長 小山 日誠

本山有清寺  
〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入  
滝ヶ鼻町一〇〇五番地の一  
TEL 〇七五(四六三)四六二〇代  
FAX 〇七五(四六三)四六五一

本門佛立宗 宗務本庁  
〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る  
東堅町一〇番地  
TEL 〇七五(四六一)一一六六代  
FAX 〇七五(四六四)五五九九

信貴山真言宗  
総本山信貴山朝護孫子寺

代表管長 田中 真瑞

管 長 鈴木 鳳永

宗務 長 鈴木 貴晶

総務部長 野澤 密孝

奈良県生駒郡平郡町信貴山  
〒636-0923 〇七四五(七二)二二七七  
二二八〇一

# 暑中御見舞い申し上げます

大阪府佛教会

会長 吉田 英哲

副会長 増田 貞圓

同 北村 日照

同 卜半 幸三

同 長洲 眞

事務局長 井桁 雄弘

大阪市住吉区墨江三丁目十七番八号  
大圓寺内  
〒558 0043 〇六(六七)三二五九  
六二三四  
FAX 〇六(六七)五〇〇四

青森県佛教会

会長 黒滝 信行

総合企画 花田 誠三  
室長

事務局長 今泉 尚道

青森県弘前市西茂森一十二一三  
宗徳寺内

〒036 8273 〇一七二(三三)四四三七  
FAX 〇一七二(三五)〇〇二八

兵庫県仏教会

会長 高見 寛康

副会長 大谷 昭世

同 衣笠 諦道

事務局長 高見 寛信

神戸市灘区原田通三丁目五一十八  
金剛福寺内  
〒657 0837 〇七八(八六)四〇四四

聖観音宗 浅草寺

貫首 清水谷 孝尚

執事長 小岩井 貫承

東京都台東区浅草二一三一  
〒111 0032 〇三(三八)四二〇一八一  
FAX 〇三(三八)四五六九三三

孝道山 本仏殿

統理 岡野 正貫

副統理 岡野 鄰子

横浜市神奈川区鳥越三八  
〒221 0064 〇四五(四三)二二〇一

念法眞教教団  
総本山 金剛寺

大阪市鶴見区緑三十四一三二  
〒538 0054 〇六(九一)二二〇一

# 暑中御見舞い申し上げます

財団法人 仏教伝道協会

会長 沼田智秀

理事長 信楽峻麿

理事 梶山雄一

同 高崎直道

同 福山諦法

同 永野健

同 豊原大成

常務理事 高島孝範

監事 井上信一

同 林行雄

同 坂東性宣

東京都港区芝四―三―一四  
〒108-0014 ○三(三四五五)五八五一

京都仏教会

会長 東伏見慈治

理事長 有馬頼底

京都市上京区今出川通烏丸東入  
相國寺門前町六八四―一  
〒602-0898 ○七五(二三三)六九七五  
FAX ○七五(二三三)六九七六

社団法人  
全日本仏教婦人連盟

名誉会長 一條智光

会長 友廣和

理事長 島田喜久子

事務局長 林 恵智子

〒170-0004 東京都豊島区北大塚一―一―一 大塚プラザビル7F  
○三(三九一〇)二八九九  
分室 〒163-0637 東京都新宿区西新宿一―二五―一  
新宿センタービル37F (INAHひまわり生命保険棟内)  
○三(三三四四)六七九四

全日本仏教青年会

理事長 矢坂誠徳

事務局長 神田謙光

事務局次長 瀬高順教

事務局次長 松本順司

神戸市兵庫区門口町三―四  
福巖寺内  
〒652-0814 ○七八(六八一)一九五一

財団法人  
国際仏教興隆協会

理事長 川井匡俊

事務総長 土佐舜成

役員 一同

東京都目黒区中目黒五―二四―五三  
〒153-0061 ○三(三七一一)七六〇八  
FAX ○三(三七一一)七六七三

今から二十年前の一九七八年、東京と京都を主会場として第十二回世界仏教徒会議（WFB）日本大会が開催されました。この会議で国連の依頼により丹下健三氏がこの年に完成したルンビニー再開発マスタープランに基づき、荒廃していた釈尊御生誕の聖地ルンビニーの復興に協力することが決議されました。それより日本の伝統仏教界を代表する全日本仏教会は、挙げて釈尊への憧憬と報恩謝徳の為に具体的に何をなすべきかについて研究とネパールとの折衝を重ねたのです。

ルンビニーの中心であるレンガで築造されたマヤ堂は、同じようにレンガで築造された基壇の上であり、内陣には釈尊の御生誕を示すマヤ夫人の石像が東向きに祀られています。入口は、東、北、南の三方にあり、東側が正面でした。しかし、東側の正面から基壇上に昇る階段は、基壇上の東南の隅で生育を遂げた菩提樹の根のために破壊され、階段は西側に付けられました。東側の基壇から一メートルほど階段を下がったところにマヤ堂の正面の入口がありました。マヤ堂の内陣は内陣というより廊下と言った方がよい南北に細長い形状で、参詣者が十人やっと立つ

## ルンビニー園

マヤ堂復興事業への取り組み

財団法人 全日本仏教会  
ルンビニー委員会

て入れるほどの狭いものでした。

基壇上で二十四メートルの高さまで成長した菩提樹は、小さなマヤ堂を覆い独特の雰囲気醸し出していました。従って根も同様に成長し、基壇の側壁から特に反対の西側のアショカ王柱の側からも、マヤ堂の天井にも姿をのぞかせていました。誰の眼にもこのまま放置すれば、近い将来マヤ堂は菩提樹の根の成長によって倒壊するであろうことは明らかでした。

釈尊御生誕を偲んで参詣するには狭い上に

みすばらしく、しかも近い将来全体に危険が及ぶであろう、こうした状況にあるマヤ堂を釈尊への憧憬と報恩謝徳のために、ルンビニーに参詣する世界の仏教徒のために修復できないものか、これが全日本仏教会が研究とネパール側との折衝の末に到達した結論でした。しかし、世評では、ネパール側はこのような状態であるにもかかわらず、マヤ堂には誰にも手を触れさせないであろうとされています。

ところが一九八八年四月、一通の電報がルンビニー開発トラスト（LDIT）から全日本仏教会に舞い込みました。電文には、菩提樹の根により危険に瀕しているマヤ堂の修復を全日本仏教会に要請する、とありました。そこで全日本仏教会は本腰をあげることになつたのです。

一九八九年七月、国連職員でLDITに出向の久保氏が、シルワルLDIT事務局長一行を引率して日本を訪問し、当時の大谷光真全日本仏教会会長（浄土真宗本願寺派門主）を表敬訪問しました。同年十一月川井ルンビニー委員会委員長一行がネパールを訪問し、修復方法につき協議、さらに同年十二月シルワル

氏が再度日本を訪問して、マヤ堂修復のためのマヤ堂修復計画協定書（アグリーメント）の原案について基本的合意に至り、翌一九九〇年五月マヤ堂修復の具体的方法についての文書に調印し、遂に一九九〇年九月、日本から春見文勝会長（臨済宗妙心寺派管長）、白川良純理事長をはじめ代表団がカトマンズを訪問し、全日本仏教会とLDTの間でアグリーメントの調印式が行われました。そして、全日本仏教会とLDTはルンビニーに赴き、春見会長を導師として着工式を執行しました。いよいよ、全日本仏教会が派遣した考古学



マヤ堂を侵食する菩提樹の根

者・上坂悟氏が着工しようとした矢先、ネパールに民主化を求める政変が勃発し、シルワールLDT事務局長は退任、王弟ギャネンドラLDT会長は表舞台から姿を消し、かくて全日本仏教会のマヤ堂修復事業は一旦頓挫しました。

一九九一年六月全日本仏教会は、ネパール文部省考古局（DOA）との間で覚書に調印しました。ルンビニーが考古学の研究対象の地域であることは周知のことでした。しかしネパールのパンチャヤットの時代、つまり王権が強かった時代、DOAは自己を主張できなかったのです。王権が揺らいだのを潮に、



第1回国際専門家会議(1994年2月、於ルンビニー)

全日本仏教会とLDTとのマヤ堂修復事業に参入しようとしたのです。

それより、この事業は経済的負担を全日本仏教会が持ち（ネパール側は一銭も負担していない）、ネパール側の職員の給料まで全日本仏教会が負担）、LDTとDOAの合議のもとに進められることになりました。一九九二年八月アグリーメントは修正され、石上智康全日本仏教会理事長とスーリヤ・B・シャキヤLDT副委員長との間で調印されました。

このアグリーメントの基本的な考え方は、「菩提樹の成長に伴い破損の著しい現在のマヤ堂及び基壇を試掘し、解体する。考古学調査を行う。それによって明らかにされる古代の仏教建築であるマヤ堂のデザインとスタイルに基づき、現在の基壇と同規模で修復する基壇上にマヤ堂を復元する」もので、これにはDOAも参画することが明記されています。菩提樹については原則的に保存されるべきであるが、考古学上及び将来にわたるマヤ堂の保存の見地から撤去が必要となった場合には、LDTの責任において撤去することになっています。さらに専門家会議の開催、考古学調査記録の作成などが規定されています。

一九九二年十二月、マヤ堂の御本尊を仮堂に安置してから、全日本仏教会派遣の上坂悟氏、DOA派遣考古学者コーシュ氏、LDT



マヤ堂直下から発掘された「石板」

派遣考古学者リジャール氏からなる考古学チームはマヤ堂考古学調査に着手し、一九九五年三月、無事終了しました。この間、一九九四年二月には第一回の、一九九五年三月には第二回の国際専門家会議を開催しました。この会議には、日本からは奈良康明教授をはじめ、スリランカ、タイ、インド、パキスタン、それにネパールから各界の専門家が参加して、貴重な意見を交換しました。

考古学調査によって発見された最大の成果は、一九九五年三月の「石板」の発見かもしれません。東西七〇cm×南北四〇cm×厚さ一〇cmの「石板」は、マヤ堂直下から発見されました。アシヨカ王柱の碑文の読みかたによ



カトマンズでの考古学調査報告(1996年2月)

つては、その存在が予想されていたのですが、予想通り現実に発見され、しかもルンビニーには無い種類の「石板」であるだけに、ある意図をもって置かれたことは明らかで、釈尊御生誕の正しくその地点を示すものであるとの期待が高まりました。学界に対して大きな課題を提起したのです。

一九九五年、日本で中村元先生、奈良康明先生、小西正捷先生、塚本啓祥先生をはじめ、全日本仏教会が派遣し、マヤ堂考古学調査の事実上の責任者であった考古学者の上坂悟氏等関係者が出席して、報告と検討の会が開催されました。

一九九六年二月、ネパール国王ビレンドラ陛下がマヤ堂を視察されました。

一九九六年二月カトマンズにおいて、三月には日本において、考古学調査報告が記者発表されました。

その少し前に、上坂氏の報告書はユネスコに提出されました。

この間、顧みれば上坂悟氏は三度、マヤ堂考古学調査リポートを執筆し、発表しております。しかし、発掘された遺物の整理が終了していないこともあって報告書は現在未だ中間的なものであって、完成には至っていないことも確かです。

さて、全日本仏教会にとって次なるというよりも本来の仕事は、マヤ堂の復元の仕事です。言うまでもなく全日本仏教会は、菩提樹の根の異常な成長により倒壊の危険に瀕したマヤ堂並びに基壇を復元するのを、本来の目的としております。マヤ堂の考古学調査はその前提作業です。世界の仏教徒が参詣できるマヤ堂の復元こそ全日本仏教会の本来の仕事です。

一九九六年八月、全日本仏教会はカトマンズで二十五名に及ぶネパールの各界の代表者と会議して、全日本仏教会とLDTとのアグリーメントに従い、どのように遺跡を埋め戻すのか、そして、どのような基壇とマヤ堂を

復元するのか、を巡って意見を交換しました。けれども、ネパール側に建設的な意見はありませんでした。一九九七年五月と六月、再びLDTとDOAを訪問し、今後の方針につき協議しました。

その際、LDTとDOAから年末までに改めて完成されたものでなくて良いからマヤ堂考古学調査報告書の提出が要請されました。しかもマヤ堂考古学調査記録だけではなく、勧告すなわち遺跡の保護の方法ならびに復元されるマヤ堂の設計図書も含めて欲しいということでした。

実は全日本仏教会がLDTと調印したアグリメントの中には、マヤ堂を解体し、発掘すれば、古代のマヤ堂の遺構が発見されるであろうから、それを参考にしてマヤ堂を復元しようという期待が盛り込まれていました。しかしマヤ堂の発掘によって古代のレンガの列や、「石板」や遺物などは発見されませんが、復元されるマヤ堂の参考資料となるような古代建築の遺構は、期待に反して何も発見されませんでした。

そこでハタと困惑してしまつたのです。報告書に含める復元されるマヤ堂の設計図書はいかにすべきか。全日本仏教会は長い議論の末、ルンビニー開発マスタープランを作成した丹下健三先生を訪問して相談しました。丹

下先生は、復元されるマヤ堂はネパールに建設されるので、もしネパールを代表する建築家とディスカッションができるなら設計に協力しましょう、と快諾して下さいました。

このことを一九九七年十月三日全日本仏教会理事会で承認を頂いた上で、LDT委員長・青年・スポーツ文化大臣シャラット・シン・バンダリ氏に伝え、全日本仏教会は一九九七年十二月四日、バンコクで開催された世界仏教徒会議(WFB)執行委員会の席上、LDT副委員長テンジン・ラマ氏に「マヤ堂の考古学調査記録ならびにマヤ堂復元を通じて



マヤ堂修復現場近影（4月下旬撮影）

の遺跡の保存保護についての提言」というタイトルの、丹下健三氏による復元されるマヤ堂の設計図書なしの報告書を提出しました。現在、LDTやDOAは今後のことについて協議していると思われまます。

以上が、全日本仏教会が長年にわたり「急がず」「怒らず」「諦めず」をモットーとしてLDTやDOAと折衝してきた経緯の概略です。

全日本仏教会のマヤ堂修復事業は、最終局面を迎えています。

また、全日本仏教会派遣の考古学者上坂悟氏の報告に基づいた報告書がLDTよりユネスコへ提出され、その結果ユネスコ世界遺産委員会は、一九九七年十二月一日より六日にイタリアのナポリで開かれた第二十一回通常会議で仏陀の生誕地であるルンビニーを世界遺産のリストへ登録したとのことでした。

このことが、正しく全日本仏教会が行ってきたマヤ堂復元事業に伴う考古学調査の今までの成果であると共に、評価であると受け止めております。本会は今後、ネパール側と交渉を進め、丹下健三氏の設計によってネパール、日本の仏教徒はもとより世界中の仏教徒のために、一日も早く釈尊御生誕の聖地にマヤ堂を復元することに全力を傾注する覚悟です。

# 全日本仏教青年会 花まつり千僧法要

五月二十六日、東大寺を会場に、全日本仏教青年会主催、南都二六会共催、全日本仏教会後援のもと、「仏法興隆誓願、花まつり千僧法要、十周年記念法要」が開催された。

当日は、全日仏青加盟各団体より多数の青年僧侶が参加し、十二時四十五分、南大門より大仏殿まで行道、大仏殿内では矢坂誠徳全日仏青理事長を導師に、華やかに慶讃法要が修行された。

終了後、十年前の法要の折りに境内に建立された、アショカピラーの前に移動し、読経と焼香が行われた。また夕刻、奈良県新公会堂に会場を移し、記念懇親会が盛大に行われた。

## 同和委員会

六月二十六日午後一時半から、真言宗智山派宗務庁会議室で、第三回同和委員会が開催された。そして第十八回同和研修会が、九月七日(月)に、浄土宗宗務庁で開催されること

が決定された。  
本年は、世界人権宣言五十周年に当たり、研修会の内容もそれにちなんだものを予定。

詳細は次の委員会で更に検討される。

## ≡≡≡事務局(局)録事≡≡≡

六月一日

三日 局内会議

文化庁との懇談会

四日 国際委員会

十日 全青協墨蹟展開会式出席

十一日 税務委員会

法律相談室

東京同宗連総会出席

十二日 人権フォーラム二一合同部会出席

十六日 信教の自由に関する委員会

局内会議

十八日 ヒューマンライツセミナー出席

二十二日 東京都仏教連合会総会出席

二十三日 総務委員会

二十四日 部落解放研究所総会出席

二十五日 法律相談室

真言宗各派同和研修会出席

二十六日 同和委員会

埼玉県佛教会副会長本葬議参列

三十日 仏教とマルチメディア研究会

七月一日

一日 局内会議

二日 日宗連理事會

三日 天台宗人権啓発研修会出席

七日 曹洞宗被差別戒名追善法要参列

九日 中山寺管長晋山式出席

法律相談室

二十三日 法律相談室

二十四日 局内会議

三十日 同和委員会

第二十五回全国仏教保育大会出席

三十一日 ルンビニー委員会

## 哀 悼

東條仁進師

六月六日、八十七歳で遷化

真言宗大鳴派管長

岡田巳成師(元全仏常務理事)

六月十五日、八十一歳で遷化

元曹洞宗宗務総長

高田好胤師

六月二十二日、七十四歳で遷化

法相宗管長

WFJ世界仏教徒会議シドニー大会  
公式代表団参加者募集

日程 十月二十六日(月)～十一月一日(日)

六泊七日

費用 一六二、〇〇〇～二四一、〇〇〇円

お問い合わせ 全日本仏教会事務局